

農業名人 (みつばち名人)

とみなが あさかす

富永 朝和

昭和13年生まれ

中川村葛島在住



分蜂の時、空一面が蜂の海になる。その時の感動はすごい。

父親（信胤さん）が、はち追い名人でした。小学校3年生の頃から自分は犬の代わりになって、スガレ（クロスズメバチ）追いについて歩きました。以来、蜂に明け暮れています。家族が重篤な折にもはちを追いつけて、家族会議でしかられたこともありました。

飼育中のスガレを襲って、みんな食べてしまうアカバチ（キイロスズメバチ）の元を断とうと思い、この蜂の研究を始めました。研究が高じて、高さ4メートルの巣や、冬季オリンピックの聖火ランナーも蜂の巣で作りました。スズメバチと対話するには、言葉より手や頭の働きが大事になります。

スガレ追いの中で、木の根っこに巣をつくる面白い蜂に惹き付けられました。日本みつばちです。この蜂のことが知りたくて古老の家に通い話を聞きました。西洋みつばちは、人間が世話してあげないと生きていけません。日本みつばちは、自然界で生きていく力を持っています。人間に何かされることを嫌い、箱（巣）が気に入らなければ、飛んでいって（分蜂）しまいます。

分蜂（ぶんぼう：群れが分かれること）は、お天気のよい日の午前11時から午後3時ごろに、女王蜂について3～4万匹が、1時間から2時間半位で巣から離れ、巣の近くに集まります。これを箱（巣）に搔きこんでやらないと、遠くへ飛んでいってしまいます。

この分蜂の様子を多くの人に見て欲しいです。2～3の巣で一緒に分蜂がはじまれば、空一面が、蜂の海になります。その感動はすごいですよ。蜂の習性を使って、時期はずれの分蜂をおこすこともできます。

日本みつばちは、西洋みつばちに追いやられている感もあり、なんとか後世に技術伝承したいと思い、信州日本みつばちの会を発足しました。

当初は上伊那、下伊那、諏訪、木曾郡の範囲を考えていましたが、愛好者が多く、現在は北海道から沖縄まで約400名の会員となり、毎年の中川村で総会とみつばち祭りを行っています。

夢は、中川村のアルプスが一望できる所に、みつばち山をつくることです。四季折々の花が咲く木を植え、分蜂した日本みつばちを採りやすいように低木仕立てにしたいと思います。



ここ数年、高嶺ルビー（赤そば）から採れる日本みつばちの蜜が、生活習慣病やがん予防に役立つと注目されています。高嶺ルビーは花のない、9月から10月半ばに咲きます。みつばち山と、高嶺ルビーなど、村じゅうの人の知恵と力をかりて、この村へお客さんが来た時に自慢して連れていける場所をつくりたいですね。